

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

【 北九州市 】

1 実践テーマ	【 II III 】
2 実施対象者	II 曾根中学校全学年 607名 III 曾根中学校3学年 207名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ①教科名（保健体育科） ②行事名（おもてなし学講座）
4 目標 (ねらい)	・ゴールボールの体験を通して、日常では感じる事が難しい「動くことの自由とその喜び」を実感させ、視覚障がい者と共生する社会について考える。 ・国際的に通用する「おもてなしの心」とマナーについて考える。
5 取組内容	①保健体育科 保健分野「共に生きる社会」の単元で以下の内容についての学習を行った。 ・オリンピックとパラリンピックの種目 ・オリンピックとパラリンピックの課題と問題点 ・高齢者疑似体験、ゴールボール体験  <p>アイマスク着用者と、サポーターと称した誘導する者に分かれて、ゲームを行った</p> サポーターは、ボールの流れを見てアイマスク着用者に「まっすぐ」「右、右」「左に来た」等と言葉で伝える。アイマスク着用者は、ボールの音とサポーターを頼りにボールを防ぐ。



アイマスク着用者とサポーターが、息をあわせて動くことが必要



そのまままっすぐ転がしたら、ゴールするよ。

まっすぐでいい？相手はどう動きそう？

(生徒の感想より)

- ・何も見えないことが、こんなに怖いと思わなかった。視覚障がいの人たちに気遣いをしたいと感じた。
- ・何も見えず、ボールがどこから来るのかすごく怖かった。体の一部でも不自由なことがあると、こんなに大変なのかと思った。
- ・目が見えない中で動くのはとても難しかったが、サポーターの誘導は心強かった。
- ・視覚があるということの素晴らしさを感じた。サポーターが肩を触って誘導してくれることに安心感があった。
- ・ゴールボールの選手のすごさが分かった。パラリンピックでゴールボールを見てみたい！！
- ・サポーターがいることで、安心してできるが、本当はサポーターがいない競技・・・選手の皆さんは素晴らしい！！
- ・視覚障がいでも、ゴールボールのようにスポーツができることが分かり、スポーツに障がいの有無は関係ないのだなと思った。もっと障がい者スポーツについて知りたいと思った。

②おもてなし学講座（全校集会）

全校生徒を対象に、国際的に通用する「おもてなしの心」についての講演会及び演習を行った。





日本航空で30年間にわたって客室乗務員として勤務され、そのときの体験談などをお話していただきました。

生徒にとって心に残るお話をしていただき、特にマナーについては具体的で分かりやすくお話をしてくださった。「分離礼」「ノックの回数」の使い分けなど、相手の気持ちを考えて行動することの大切さを演習を交えて学ぶことができた。



おじぎの仕方にも、すぐに変化がみられました。

講演後すぐに、生徒の挨拶やノックの仕方に変化が見られた。特に3年生にとっては、高校入試の面接練習にもつながり、とても役に立った。

(生徒の感想より)

- あと2年と少しで開かれる東京オリンピックに向けて、世界共通の握手や会話の仕方など、相手により印象を与えやすい行動を知ることができたのでよかったです。
- 日本の「おもてなし文化」がいろいろな国に広まっていくように、私もいろいろな人に「おもてなしの心」で接していきたいです。
- 相手の気持ちを考えて行動したり、気遣いをしたりすることが「おもてなし」だと分かりました。
- 2020年の東京オリンピックや、これから海外に行くことがあったら、今日学んだ少しの気遣い、そしておもてなしの心を忘れないようにします。
- どんなときも同じように接するのではなく、相手の気持ちを考え、時と場合によっておもてなしの仕方を考えないといけないことが分かりました。
- おもてなしのポイントを具体的に分かりやすくお話してくださったので、聞いていてとてもおもしろかったし、いろいろなことを学ぶこ

とができました。おもてなしの気持ちと経験値があがったと思います。私も江上さんのように、おもてなし意識の高い人になりたいです。



6 主な成果

(保健体育科の取組)

パラリンピックが開催されることの意義について理解し、障がい者スポーツへの理解を深めることができた。また、健常者と障がい者がノンバーバルを築くために、スポーツがどのような価値を有しているのかについて考えることができた。

(おもてなし学講座の取組)

講演後すぐに実践できることが多く、国際的に通用するマナーについて、生徒達は楽しみながら理解することができた。

7実践において工夫した点(事業の特色)

(保健体育科の取組)

ゴールボールの正規ルールではなく、生徒達がコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーションの必要性を理解させるために、アイマスク着用者とサポーターと称した誘導者とに分かれ、独自のルールで行った。

8主な課題等

(保健体育科の取組)

ゴールボール教材の取り扱い業者が少なく、教材費も高額なため、数多く購入することが難しい。

9来年度以降の実施予定

(保健体育科の取組)

今回の取組をきっかけに、オリンピック・パラリンピックへの興味、関心が高まり、ゴールボールを通して障がい者スポーツへの理解することにつながった。来年度へつなげることによって知識の深まりと学習の定着に期待したい。

(おもてなし学講座の取組)

今回の講演で、日本人が本来持っている「おもてなし、思いやりの心」「礼儀正しさ」「正しい姿勢」等について理解するとともに、日本の伝統的な良さを再確認することができた。国際人として必要なマナーやスキルを学び、相手の文化や習慣を尊重し、臨機応変な対応ができる判断力を身に付けることができるように取り組みたい。